ヨーロッパの家具・雑貨および
インテリヤデザイン

本　村　昌　平

1 目　　的

本県の木製家具・雑貨の生産にとって最も必要とされている点に生産技術の向上，近代化とデザインがある。中でも近年いちじるしく目立って来たことは国際競争力をつけなければならないということである。従って国際的先進地ヨーロッパにおけるこれ等の物の作られ方・使われ方からデザインに至る傾向を研究，今後の方向づけをはかることを目的とする。

2 概　　要

この研究は日本産業デザイン振興会が，昭和４８年度産業意匠改善研究員としてヨーロッパに派遣し，個々のテーマによって研究を実施したものである。

2－1. 期　　間

昭和４８年９月１６日　～　１２月１８日　　９４日間

2－2. 調査研究の対象となった国・都市・機関など，デンマーク，スウェーデン，西ドイツ，オランダ，イギリス，フランス，スペイン，イタリアの８ケ国　２２都市を訪問，デザイン振興機関，デザインセンター，デパート，ショールーム，家具工場，博物館，学校，家具見本市など７４機関を訪問，つぶさにその傾向，特色などを研究した。

2－3　研究の結果

2－3－1. 北欧の家具・雑貨について

事前調査によれば，北欧の家具は特に国際的に先進地で高級・高品質を売りものにしているということであった。しかしデザイン事務所等ではこの傾向はむしろ過去のもので今後は若い層にもてるコンパクトなものへの移行を心がけており，又照明器具なども原色を多くとり入れた極めてカラフルなものが多くなりつつあるとの事であった。しかし，品質管理の面では技術試験所などによる厳重な検査制度が確立されており今後参考にしなければならない点であろう。

2－3－2. 西ドイツにおける木材工業とインテリア

西ドイツでは木工機械工場２，材料メーカー５，家具工場５，デパートショールーム１２個所を詳しく見学研究を行った。殆んど材料は輸入材，従ってパーティクルボードなどの利用が進んでおり，加工技術においても極端な機械化を目指している。傾向としては気候と密接に関連し，いづれも重厚なデザインで価格も高価，又高品質となっている。

2－3－3　中部ヨーロッパのデザイン

イギリス，フランスを中心として家具，装飾品は生活に密着した貴重品として扱われている。従って生活の道具としての考え方が定着し，古いものを極めて大切にする傾向である。又デザインセンターなどによる一般市民に対する啓蒙活動は活ばつに行われている。

2－3－4　南部ヨーロッパ

スペイン，イタリヤのデザインは一口に言えば明快で良く国民性を表わしていると言えよう。しかし新進デザイナー達の考えている事は，空間とのつながりで日本建築の美，日本人の住まい方などが今後とり入れたい新らしい方向であり，新らしいデザイン的発想であると信じているようであった。

3 成　　果

この種のデザイン研究は短時日のうちにその成果が表われるというものではない。国際力をつけること即ちレベルアップは一つ一つの積み重ねで完成されるものである。この点ではヨーロッパのデザインは各国のもつ独特の文化を土台としてその上に咲いた見事な花であり，我国のもつ歴史的背景，日本文化，並びに生活様式も内容こそ異質なものであるが，決して劣っているものではない。今後これ等の特色あるデザイン開発こそわれわれに課せられた大きな課題であろう。

家具のデザイン改善研究（継続）

1　コーナー用可動式机収納書棚

鮫　島　正登美

(1)　目　的

現在住宅での生活実態として，個々のプライバシー意識が強く，個室化の傾向がある。この個室の環境整備と有効利用を目的とした設計研究は今までも行なってきたが，今年は，固定性ある書棚に，可動式の片袖机を取り付けた，コーナー用の物をデザイン試作した。

(2)　デザインの目標

(2)－1　機能性と用途性

書棚の下部の側面一ケ所を軸に横に可動させ，片袖机を書棚の下部にフォルデイングインできることで室内を他の目的のために使用することができる。もちろん書棚の機能はそのままはたせる様デザインした。

また，片袖机，テーブルとして使用する時は，逆に逆にと転回すると，テーブルが出また片袖が出る様にしたものである。

(2)－2　構造と移輸送について

ごく一般的な二段重ねの書棚の下段に片袖机を収納するので，側板前面一ケ所の上下にスラスト・ベ